

## 『ことばたんけんたい vol.2』 支援のヒント

ページ	No.	ヒント
p.7 ～ p.9	no.08 ～no.10	<p>●カタカナカードの使い方例</p> <p>カードは、よく似た音、よく似た字形を確実に識別してもらうために使いましょう。この2文字の識別不全が読み書き障害の最初の要因になるため、カードを以下の組み合わせにしてアクティビティを行うと良いと思います。</p> <p>例えば、「ソ」と「リ」の2枚を並べて、先生が「【ソ】はどっち?」と聞いて、正しいほうを選んでもらいます。同様にすべてのペアで読み分け、聞き分けができるか実施します。</p> <p style="text-align: center;"> 「ア」「マ」                      「ウ」「ワ」                      「エ」「ユ」  「ク」「ワ」                      「ク」「タ」                      「シ」「ツ」  「ス」「ヌ」                      「ソ」「リ」                      「ソ」「ン」  「チ」「テ」                      「ナ」「メ」                      「ラ」「ヲ」 </p>
p.33 ～ p.36	no.34 ～no.37	<p>特殊音節には「拗音」「促音」「長音」「撥音」の4つとその組み合わせがあります。「キャ」「シュ」など、「キ」と「ヤ」、「シ」と「ユ」は単体では読めても、組み合わせると「キャ」「シュ」となると、途端に困難になる子がいます。</p> <p>また特殊音は組み合わせも多いので、聞き分けと書き分けを苦手とする子が多いのです。</p> <p>●カタカナカードの使い方例</p> <p>まず、特殊音のカードを並べておいて、「【キャ】はどれ?」と言ってそこからカードを選んでもらいます。</p> <p>一通りできたら、pp.43-49の「シュークリーム」「シチュー」などを先生が言って、聞き分けができるかどうかカードを並べてもらいます。</p>
p.37	no.38	<p>拗音、促音、長音はそれぞれ1拍であることを注目させます。例えば、「チョコレート」の音の数は5です。拍（モーラ）の数も5です。できるだけ多くのカタカナの言葉に触れて、日本語の拍（モーラ）の感覚に慣れるように支援しましょう。</p>
p.43	no.44	<p>「先生が動物の名前を言います」とありますが、出題形式に慣れてきたら、子どもに「先生役」をしてもらってもよいと思います。また、外国にルーツを持つ子どもの場合、出身国では動物はどう鳴くのか話してもらうのもよいでしょう。</p>

ページ	No.	ヒント
p.49	no.50	<p>②「鍵盤ハーモニカ」は、地域によって「ケンハ」「ケンハモ」「ピアノカ」「メロディオン」などの呼称も使われています。日ごろ子どもたちが学校生活で使用する呼称を紹介して、読んだり書いたりしてください。</p> <p>*その地域特有の言い方を大切にしたいうえで、支援者の方は、「“ケンハ”は、鍵盤ハーモニカとも言います」のように、ひとこと付け加えていただけたらと思います。外国にルーツを持つ子どもは比較的移動が多いので、全国どこに行っても戸惑わないように、こういう言い方もあるよ、ということ伝えていただけたらと思います。</p>
p.55	no.57	<p>「リス、バラ、ゴリラ」などの言葉が答えとして想定されていますが、その他にも「ソバ、ソラ」など通常カタカナで書かない言葉を見つける子どももいるかもしれません。子どもが探し出せたことをほめてあげてください。</p>
p.63	no.65	<p>名前をカタカナで書く問題ですが、外国にルーツを持つ子どもたち全員がカタカナ表記の名前ばかりではありません。しかし、名前の読み方をカタカナで記入したり、ゲームのハンドルネームやアカウント名をカタカナ入力したりと、名前をカタカナにする場面は多いものです。子ども自身や身近な人の名前などをカタカナで書いてみるよう促してください。</p>
p.65	no.67	<p>⑥「うわ□□をはきます」は、「うわ<u>ば</u>き（上履き）」または「うわ<u>ぐ</u>つ（上靴）」を答えとして想定しています。外で履く靴やいわゆる「体育館シューズ」と区別される、校内で履く靴の名称です。</p> <p>*この問題を作るにあたって、校内で履く靴のことをどう表しているのか、令和に出された各地の学年だよりを調べてみたところ、全国的には「上履き」が多いようでした。中には、「内ズック」「シューズ」「バレエシューズ」と表記している地域があることもわかりました。一部の地域や学校では体育の時間に靴を履き替えることがなく、教室で履いている靴と体育館で運動するときの靴は同じものだそうです。そうすると、体育館シューズに対する「上履き」という定義も揺らいできます。それぞれの学校・地域の事情に合わせて、ふだん使っている語・名称も提示し、書いたり読んだりしてみてください。</p>

ページ	No.	ヒント
		<p>⑦「ラ□ドセルを□□□ます」は、「ランドセルをせおいます／しょいます」を想定していますが、地域によっては「かつぎます」「からいます」も使われています。</p> <p>*答えは、⑥⑦のように、それぞれの学校・地域の事情に合わせて、日ごろ子どもたちが学校生活で使用する語・名称も正解としてください。解答欄のマス目が合わない場合は適宜ご対応いただき、地域性をぜひ大切にしてください。</p> <p>その地域特有の言い方を大切にしたいうえで、支援者の方には、「“内ズック”は“上履き”とも言います」「“かつぎます”は“せおいます”とも言います」のように、ひとこと付け加えていただけたらと思います。外国にルーツを持つ子どもは比較的移動が多いので、全国どこに行っても戸惑わないように、こういう言い方もあるよ、ということ伝えていただけたらと思います。</p>

### カタカナカードの使ったアクティビティの例

(\*同じ文字を複数必要とする場合は、該当のPDFを適宜、複数枚プリントアウトして用意してください。)

**Activity 1** 五十音表のところどころに空白の枠のカードを置いておき、該当のカタカナカードを置く

**Activity 2** カードを並べて、自分の名前をつくる

**Activity 3** 先生がカタカナのことばを言って、子どもはそれを聞いてカードを並べる

**Activity 4** 複数の子どもがいるなら、**Activity 2** の先生役も子どもがして、順番に交代していくと楽しい